

21世紀のアジアにおける 豊かさ・幸福を求めて

よりよい共生が可能な社会をめざして
2010. 7. 10-11 日仏会館

井上泰夫・名古屋市立大学院経済学研
究科

はじめに

- 直観として
- 絶対的な豊かさ・幸福の基準を画一的に求めることは困難
- 豊かさは歴史的に、空間的に変化する
- 見方は進化する
- 資本主義の変化と連続性
- 危機のなかで、どう進化したか？

I 1929年—2008年

- 現実の経済の閉塞感 2008年以來
- 「100年に一度の危機」と言われるが、
- 1929年の恐慌は、資本主義の変化を生んだ
- 現在の危機は、新たな資本主義の到来を意味するのか
- いずれしにしても、1970年代以降の新自由主義原理の衰退は必至

- 1930-1945 アメリカ的生活様式が世界にとってキャッチアップの対象
- 「物質的豊かさが人間を豊かにする」という共同幻想
- 実際、存在した「安定的賃労働関係」
- それが、1970年代半ば以降不安定化
- 分配すべきパイの縮小、企業収益ダウン・・・

- ……労働生産性の停滞 1980年代—90年代の長期不況
- そして、1980-90年代になると、豊かさの尺度が変化する 製造業の長期的・安定的賃労働関係がヘゲモニーを失う
- それまでの経営者資本主義(フォード主義)から株主資本主義へ 小さな政府

- ニューエコノミー＝規制緩和+金融革新+IT
- アメリカンドリームの変貌 ミドルクラスの崩壊⇒「砂時計型社会」「すべり台社会」へ
- 1920年代の豊かさ—株式バブル
- Fordism-大衆消費社会
- 1990年代—株式バブル復活
- 2000年代—不動産バブル

Ⅱ アジアの現在

- 1970年代までアジアでは「停滞」が支配的
- そのアジアのなかから、アジアNICs、NIES、第2世代NIES(ASEAN)、中国、インドという「成長」の連鎖が1970年代後半以降起こる
製造業の直接投資+金融グローバル化
フォード主義の製造業の生産拠点として出発
大衆消費社会をめざす

- 物質的豊かさの追求 国境を越えるアジアの中間層
 - だが、加速度的な成長過程でバブルが発生
 - 1997年アジア通貨・金融危機
- 国民生活を直撃 社会的安全網の不足
失業保険から社会保障制度まで

- アジアの「成長」とは？
- アジアNIESは後進国から先進国化しつつある 韓国の例 中国の沿岸部も然り
- 第2代NIEs アセアン 光と影 タイの迷走
- 成長にもかかわらず、社会は不安定
- 膨大な不正規雇用、出稼ぎ農民の層の存在は、ミドルクラスを大きく上回る
- 現代資本主義は、19世紀的資本主義に後退しているという側面

Ⅲ 今後の展望

- 賃労働関係の安定性の回復
- かつてのフォード主義には戻れない
- EUのflex-security モデルの意味
- アジア Grameen銀行 マイクロクレジット
- 日本「同一労働・同一賃金」の批准
- 残業でしか1家4人を養えない現在の状況
- 要するに、

- 「雇用の安定→家族形成→次世代の養育→雇用」という世代循環の形成
- ⇒「所得分配の安定→税収安定→社会保障制度の確立」という社会的信頼の醸成
- アジアー欧米輸出市場に依存する成長から脱却

結語にかえて

- 経済(学)とは何か
- フランス革命前夜の経済学者
- F.Quesnay 1694－1774
- 「経済表」再生産 最初の前提が再び結果として再現される(マルクス)
- 自然＝農業の安定→社会の安定
- 現代に通じる教訓 人間自身の「再生産」